

2018.6.24 年間第12主日

## なぜ怖がるのか。まだ信じないのか

マルコによる福音 4:35-41

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

### 説教

嵐を呼ぶ男という映画がありましたが、考えてみれば嵐を呼ぶ男は迷惑な人です。できればかわりになりたくないのが人情でしょう。

きょうの福音の解釈のひとつに「弟子たちに与えた試練」というものがあります。イエスは召しだした12人の弟子たちをあえて試練に導かれたという解釈です。きょうの第一朗読はヨブ記の38章でしたが、ヨブ記では神はヨブに試練を与え信仰を試されました。試練にあるヨブと友人との長い対話のあと、この38章で神が語り始め、この世界を創造し、すべてを支配していることを改めて強調しヨブの不信仰を咎めます。きょうの嵐のガリラヤ湖もこの文脈で解釈すると神=イエスさま vs ヨブ=弟子の関係に対比できます。イエスは嵐を呼び出し、弟子たちがどうするかを試しそして嵐を静めた、イエスは嵐を呼ぶ男であり、嵐を沈める男であったということです。

ガリラヤ湖はこの世界でもあります。風は予期せず吹いてくる。この世の煩  
いを象徴する予期せぬ嵐、私たちもこの世の思い煩いの中で翻弄されます。  
しかし、何事にも動じない主は御父を枕に眠っておられます。そして信仰者  
であるわたしたちは主イエスとおなじ舟に乗っているのです。  
イエスさまはきょうもわたしたちを励ましてくれます。

「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」

-----